

	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所	名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 <a href="http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/">http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/</a>
	<b>セコイア通信</b>	編集人	富岡利恵・伊藤智和
		発行人	藤井 潔
		印刷所	株式会社 クイックス

## グローバル化と大学間競争時代のなかで

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 前島正義



農学部同会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃から農学部ならびに生命農学研究科の教育研究活動にご理解とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

農学部では750名、研究科では470名が学び、130名の教員と50名弱の事務・技術職員、そして多くの非常勤職員・研究員によって教育と研究が支えられています。毎年、約180名の学士、150名の修士、30名の博士が巣立ち、心に張りつめたものを感じつつ、それぞれの第一歩を踏み出しています。就職状況も全国的にもトップクラスとして認められています。新しい歩みの先で、同窓会会員の皆様が先達として明かりを灯し、あるいは励まし背中を推していただいています。心よりお礼申し上げます。

この機会に、大学の置かれている状況と最近の名古屋大学と農学部・生命農学研究科を紹介させていただきます。大学をめぐる大きな課題は、国策としての大学改革政策が押し進められている点です。その中には世界最高の教育研究の展開拠点の形成、大学での研究成果の実用化によるイノベーション創出など高く強いメッセージが盛り込まれています。財政的には厳しい中で、名古屋大学は今年度、研究大学強化促進事業で国内トップ4に入る大学として認められ、濱口総長をはじめとして、研究拠点形成、海外展開、留学生の受入と日本人学生の留学支援、グローバル大学院プログラムの推進、若手教員・女性教員の積極的な登用など、時代を画する事業展開をしています。当研究科も、今年度は複数名の女性教授が採用・昇格となりました。また、学内には1700名の留学生が学び、英語での授業も広がっています。

こうした状況の中で、農学部・生命農学研究科は自

らの足元と目標を見据えて、特色を活かした研究と教育を進めています。昨秋、

大学のミッション再定義として当研究科の文書をまとめ、文部科学省のヒアリングを受けました。例えば、「農学の諸分野の高いレベルの研究を推進」と記した部分は、優れた実績があるのでより高い目標と表現が適切ではないかとのアドバイスを受け、「特色ある世界トップクラスの高い研究実績を活かし、農学諸分野のフロンティアとして新しい学問領域を世界に先駆けて創出・発展させることを目指す」との表現に改めました。10年後の評価に耐える努力を積み重ねます。

グローバル大学院プログラムでは、本学は6プログラムが認められ、研究科としては、「グリーン自然科学国際教育研究」、「PhD プロフェッショナル登龍門：フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成」、「ウェルビーイング in アジア実現のための女性リーダー育成」の推進を担当しています。こうしたプログラムは、大学が人類の科学面での知識の積み上げだけでなく、大学での研究を通して新技術が開発され新しい社会的な価値を創出すること、そして広い視野と高い志をもった学生を育てて世に送り出すことが求められているからです。このプログラムでは大学院学生が国内外の企業研究所訪問・研修、国際会議での研究発表、各種スキルセミナーの受講、研究科を超えた講義の履修と学位論文審査、アジア各国と欧米大学への訪問研修が進められています。勤勉さに加えて、国を超えて人々の力を束ね、新しい事業を展開できるタフさと精神的な共鳴構造をもつ若者たちが輩出されていきます。

大きな掛け声により、四苦八苦しゆとりのない大学

生活になる可能性もあります。学部学生の期間は精神的にも不安を抱える時期であることは世界共通ですので、大学全体での学生支援に加えて、今春から、学部独自の学生相談室を設置します。学生たちにとっては、学部あるいは大学院を修め、厳しい社会で困難を乗り越え活躍されている同窓生の皆様の姿が一番の大きな励みです。昨年秋には、同窓会関東支部の集まりに参加させていただきましたが、私も講義の合間に同窓生の皆様のことを紹介しています。

我が国の経済活動がグローバル化していることは周知のことですが、ワンダープラネット地球も、人類が生き続ける上で社会的にも地球的にも環境の限界点を迎えています。国の間での経済的な格差、民族・宗教・国家間の戦争や係争、食糧、衛生、高齢化、エネルギー、環境汚染など数え上げればきりがありません。その中で、大学は学術上の知を創出し続けることが重要ですが、それに加えて、世界と地球をとりまく多くの深刻な課題を解決する視点と努力が強く求められています。農学部・生命農学研究科は、国内外の大

学や他研究科と比べて、学科や専攻間の垣根が低く、先端機器の共通利用もごく普通に行われています。これは互いの知恵を交流・交換して研究を推進し、学生には多様な環境を提供し学ぶ機会を豊かにする効果があり、新しい学問を創り出す基盤でもあります。ここには、動植物微生物を対象とした生理学や遺伝学、分子生物学・生化学・有機化学、森林や土壌を含む環境に視点をおく研究分野、農業経済学があります。アジア・アフリカに視点を向けた農学国際協力教育研究センターも国内屈指の活動を展開し、イネ研究を通して極めて高い基礎研究をしつつ、近未来の食糧確保のための応用研究を推進している生物応答研究センターも世界的な評価を得ています。本学および研究科の様子はホームページを通してリアルタイムでご覧頂けますので是非ご活用下さい。

同窓会員の皆様には安心して見守って頂けるよう、明るい話題を中心に述べさせて頂きました。会員の皆様のますますのご健康とご活躍、そして農学部同窓会の発展を祈念し近況報告といたします。

## 農学部同窓会会長挨拶

藤井 潔（昭和54年3月卒業農学科）



同窓会の会長を拝命することになりました藤井です。農学部卒業以来、同窓会とはほとんど縁がありませんでしたが、イネの重要病害である穂いもちに対して特異的に強い抵抗性を発現する新規遺伝子 *Pb1* に関する研究で学位（論博）を授与いただいた関係もあり、会長就任の依頼をお引き受けしました。海老原史樹文前会長とは異なり、学外の会長で至らない点も多いと思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、私が農学部に入學した時期は1975年、今から39年前になります。今では大学生生活に不可欠な存在である、インターネット、スマートフォン、タブレットは言うに及ばず、パソコンも携帯電話も、当時は全く普及していませんでした。論文執筆は作図作表を含めて、ひたすら手書きかタイプライターに頼っていた「懐かしい時代」でした。

テレビで「鉄腕アトム」を見て育ち、科学技術は人類を幸福にする「正義の味方」と素朴に信じていました。しかし、アセトアルデヒドを製造する工場の廃液に含まれていた有機水銀が水俣病を引き起こすなど、

各地で「公害」が住民の健康に被害を及ぼす事態となり、科学技術に対する私の単純な「信仰」は大きく揺らぎました。高校生時代に小説「複合汚染」が新聞に連載され、著者の有吉佐和子氏は、「人や生き物、環境に悪影響を及ぼさない農業技術の開発と普及が必要だ」と強く訴えていました。今でいえば「IPM」「環境保全型農業」の啓蒙書です。一方、この小説には各

方面からの辛辣な批判があり、私もこの小説で語られる技術がいわゆる「篤農家技術」ばかりで、普通の農業者が普通に減農薬に取り組める普遍的技術が少ない点と非科学的な記述が多い点が気になりました。

しかし、私は、この小説の中でレイチェル・カーソン博士の存在を初めて知り、在学中にその著書「サイレント・スプリング」や関連の専門書により、DDT、BHCなど当時の有機塩素系殺虫剤の残留性、生体蓄積、生物濃縮など、科学技術は農業利用の場面でも「諸刃の剣」であることを学び、卒業間近に「病害虫に抵抗

性を持つ農作物の開発が今後の技術的課題である」との確信を持つに至りました。農学部時代のこの「確信」が、その後、イネの病害虫抵抗性育種に心血を注ぐ大きな原動力となり、普遍的な減農薬稲作技術の一つを品種・種子という形で確立・普及できました。母校と恩師に心から感謝しております。

長々と個人的な思い出を書いてしまいましたが、私に限らず、同窓生の皆様は母校や恩師、級友、そして

農学部在学当時の自分自身に懐かしい思いをお持ちの方も多いのではないのでしょうか。農学部同窓会では、名大祭期間中の6月7日(土)に、総会、講演会、懇親会を行います。詳細は、本文の後にご案内しています。母校でご自分の「めもあーる美術館」をお訪ねいただき、あのころのご自身に再会され、旧交を温められてはいかがでしょうか。

## 平成26年度名古屋大学農学部同窓会、総会、講演会、懇親会のご案内

平成26年度名古屋大学農学部同窓会、総会、講演会、懇親会を下記の日程で開催します。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。講演会、懇親会への参加も歓迎いたします。

○期 日：平成26年6月7日(土) \*名大祭期間中\*

○総 会

時間：午後2時～3時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○講演会

有限会社 マシキ・ジャパン 取締役社長

神谷 典明 氏 第9回(昭和52年3月) 農学部林産学科卒

『私のインドネシア人生』

どうして私がインドネシアと30年も絡むようになったのか？

その原因は林産学科に有り。

インドネシア人生を通して会得した、夢を叶える方法を語ります。

時間：午後3時～4時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○懇親会

時間：午後4時30分～6時30分

場所：名古屋大学内 “レストラン花の木”

会費：1,000円

### 同窓会を開きませんか!?

農学部同窓会を機に、久しぶりに農学部が集まって同窓会を開催しませんか？農学部同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。是非、同窓会事務局(dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp)まで事前にご連絡ください。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

## 卒業生の言葉

### 「楽しい4年間」

生物環境科学科 森林環境資源学分野 花井 勇一  
今大学の4年間で振り返ってみると、もう卒業してしまうのか。と感じてしまうようなとてもはやい4年間でした。

大学はいままで生きてきた中で最も自分のやりたいようにできる、自由な期間であったと思います。自分で学びたい授業、そして研究を選択し、自分のやりたいアルバイトをし、そこで貯めたお金、そして余りある時間を自由に使える。そんな期間でした。そしてその中で私もさまざまな経験をさせてもらい多くのことを学びました。

授業ではさらに専門的な知識を学び、実習では実際に山の中に入り森林に関する知識、現状を身を持って知ることができました。研究室に入ると、これまでほとんどが受動的だった授業とは変わり、自分である仮説をたてて、それに基づいて実験計画立てるという主体的なものであったので、最初はうまく計画を立てることができず、その結果先輩方に迷惑をかけてしまうこともあり、計画の重要性を学びました。

学業以外でも、いろいろな経験をしました。友達とボランティアに行き、この現状に何か貢献したいと卒業研究のテーマを決めるきっかけになったり、居酒屋のアルバイトでは普段接する機会のない社会人の方とお話することができたり、時には寒い中何時間も外で客引きをしたりしました。(さすがにこれは辛かったです、) また同じ学科の友達とインドにバックパック旅行に行ったときには、文化、そして人柄の違いに驚き、お金をだまされたりすることもありましたが、同時に日本がどれほどすばらしい国なのかと感ずることができました。

このようにいろいろな経験ができ、多くのことを学ぶことができたのも、様々な人のおかげだと感じます。なんでも自分の自由にさせてくれた両親や、研究に関するいろいろなアドバイス、知識を教えて下さった教授の方々や研究室の先輩方、また人数が少ないということもあり、高校クラスのように仲良くしてくれた、4年間勉学を共にし、一緒に旅行にも行った学科の友達。こんな人たちと出会えたことに本当に感謝しています。今年から私は大学を卒業し社会人になりますが、今まで学んだ経験を少しでも活かし、社会で活躍していきたいと思っています。ありがとうございました。



### 卒業を迎えて

資源生物科学科 資源植物環境学研究分野 清瀬 友規  
月日が経つのは本当に早いもので、ついこの間名古屋大学に入学したばかりなのにもう卒業を迎えようとしています。この4年間で思い返してみると、学部やバイト先、サークルといった様々なコミュニティにおいて非常に多くの頼もしい友人や先輩後輩に恵まれ、また彼らと共に育んだ多くの思い出はどれも私にとってかけがえのないものです。

その中でも3年生の後期に参加した海外実地研修は特に印象深い思い出です。タイ、カンボジア、日本の3カ国の学生が複数のグループに分かれて農家訪問等の現地調査を行い、その結果をまとめてプレゼンテーションを行うこの研修は、これまで座学で学び多少なりとも得てきた農学の知識が現場ではどのように役立っているのか、あるいはどれほど無力なのかを、肌身を通して教えてくれました。それだけではなく、東南アジアならではの茹だるような暑さの中、海外の学生との英語による意思疎通の難しさも痛感させられました。しかし、研修後の達成感もそれ相応に計り知れないもので、実際に行ってみないと分からないことだということを経験できたことは本当に良い経験だったと思います。

4年生になり、研究室の配属先が決まると、より自主性やそれに伴う責任が要求されるようになりました。今まで自由気ままに生きてきた私は、研究室での生活を通して、与えられた研究テーマに向き合うと同時に、自分の進路についても考えるようになりました。これから将来、私がどこで何をしているかなんて見当もつきませんが、名古屋で4年間学生として過ごせたことは、いつ思い出しても本当に良い4年間だったと思えるでしょう。

最後になりましたが、いつも優しく且つ的確な助言

をもって指導して下さった先生方、先輩方、日々の生活に充実感を与えてくれた友人、そしてどんなわがままな私の意見を尊重し、温かい目で見守ってくれた家族に心からの感謝申し上げます。



## 4年間の思い出

応用生命科学科 四年 小林 爽季

今からちょうど四年前、初めての一人暮らしを名古屋で始めました。初めは周りに知り合いが一人もおらず、ホームシックにかかることもありましたが、早く友達がほしいという思いから新歓などのイベントに積極的に参加し、たくさんの人と仲良くなることができ、楽しい新生活が始まりました。また、ラグビーについての知識は全くありませんでしたが、勧誘されるがままにラグビー部への入部を決めたことや、学部のウェルカムパーティーで出会った友達が全員関西出身で、その場で意気投合できたことなど、懐かしい思い出でいっぱいです。

私は体育会系の部活に所属するのが初めてで、入部当初は先輩方についていくのに必死でした。手先が不器用で、テーピングの技術をなかなか修得できず、同期と空いた時間を見つけては必死に練習しました。一方で、実験が始まるとなかなか部活に参加できず、自分だけ仕事ができているのではないかと焦ったこともありました。思い返してみれば、辛い経験ばかりでした。しかし、引退した今となっては、四年間を部活に打ち込んできた達成感と、その四年間が終わってしまう寂しさでいっぱいです。

部活のために遊びの誘いを断ることも少なくありませんでした。それでも私を支えてくれた友達には本当に感謝しています。落ち込んでいるときには相談に乗ってくれて、面白いことがあれば一緒に笑ってくれた、大好きな友達がいたから、この四年間を楽しく過ごすことができました。思いがけないハプニングをお互いに助け合いながら乗り越えた五日間のタイ旅行は、一生忘れられない思い出です。

また、オーストラリア短期留学の推薦をいただき、

ずっと憧れていた海外留学を実現することができました。留学を通じて、自分の英語力が未熟であると気づき、英語を上達させるためには、自ら進んで英語を話そうとする姿勢が大事であると痛感しました。

いろいろなことを経験できた四年間を振り返ってみると、充実した大学生活だったと思います。学部を卒業後も、大学院生として名古屋大学農学部に残りません。研究生活も二年目となるため、今まで以上に実験に励みつつ、何か新しいことにも挑戦して、学生時代にしかできない経験をこれからもしていきたいと思っています。

最後になりましたが、私の大学生活を支えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお祈りします。



## 修了に際して

応用分子生命科学専攻 分子生体制御学研究分野  
米澤 佳保里

この6年間は貴重な体験の連続でした。特に研究室で過ごした3年間は濃密でした。哺乳類の病に関する研究に携わりたいと思い、現在の研究室を選びました。研究室に通うという、それまでの学生生活とはまるで違う新鮮な日々が胸が高鳴っていたことを覚えています。研究を始めると、その奥深さや情報量の多さに圧倒されたり、実験に苦戦したりと、思うようにいかないことが多々ありました。先生および先輩方から丁寧な助言をいただき、同期と励まし合いながら、躓きつつも今日まで進めることができました。また、実験に取り組む周りの人の背中を見て刺激をもらいながら、自分のやり方を模索し、研究に対する姿勢を学びました。研究報告においては、自分の実験内容や考えを分かりやすく的確に伝えることの難しさも痛感しました。これは今後も課題です。

研究に加えて様々な行事も楽しみました。研究室旅行や研究科のソフトボール大会などが挙げられます。中でも研究室対抗のボーリング大会については、実験後に練習に行ったりと盛り上がり、一昨年の最下位か

ら今年の3位へと大きく飛躍しました。加えて、不定期に開催される飲み会も楽しみのひとつでした。このように和気あいあいとした和やかな雰囲気の研究室で過ごした3年間はかけがえのない日々であったと感じています。慣れ親しんだこの大学を去ることは寂しいですが、次に皆様と会う日を楽しみに、社会人としての新しい生活に挑戦していきます。

最後に、充実した学生生活を過ごすことができたのも、周りの皆様のおかげです。御指導いただいた指導教員の皆様に深く御礼申し上げます。研究室の先輩方、同期および後輩の皆様にご心から感謝いたします。思い出深い学生生活を共に過ごした友人に感謝いたします。そして、不慣れな土地での生活を物心両面で支えてくれた家族に感謝いたします。



## 平成25年度総会、講演会、懇親会、ならびに農学部第9回卒業生および修士第7回卒業生の卒業50周年記念祝賀会の報告

平成25年6月8日(土)、農学部第3講義室において総会を行いました。平成24年の事業・決算報告を行った後、平成25年度役員を選出し、平成25年度事業計画・予算を審議しました。総会終了後、永井雄太郎氏(JAあいち経済連 営農支援センター)による講演「残留農薬分析—その方法と農産物の安全安心対策における役割—」を開催しました。講演終了後、「レストラン花の木」にて懇親会を開催し親睦を深めました。

同日、名古屋大学農学部大会議室において、農学部第9回卒業生および修士第7回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を、農学部談話会と共同で開催しました。平成17年に始まったこの祝賀会も8回目を迎え、卒業生、談話会会員、現職員ならびに同窓会役員合計45名が出

席して盛大に行われました。祝賀会では、出席いただいた方々からの近況報告をいただき、互いの旧交を温めておられました。また、渡辺正実教授(総長補佐、研究推進室・副室長)による記念講演「大学改革の行方と「研究大学」が担うべき役割について」も行われました。

第10回卒業生ならびに大学院第8回修士生の卒業50周年記念祝賀会は、平成26年6月7日(土)に開催する予定です。懐かしい先生方にもご参加いただけるかと思っておりますので、記念祝賀会へのご招待状が届きましたら、万障お繰り合わせの上、ご出席ください。祝賀会、講演会、懇親会に関する情報は農学部同窓会ホームページに掲載中です。是非ご覧ください。

## 平成25年度名古屋大学農学部学術交流基金助成事業の採択者一覧

(農学部学術交流基金助成は農学部創立50周年記念事業の一環として行われています。)

「海外派遣」

• Mary Jane B.Alcedo (D2)

研究題目等：International Conference on Sustainable Development 2013 Canada (持続可能な開発に関する国際会議2013年カナダ)

## 人事異動 (平成25年1月～12月まで)

日付	異動内容	異動後職名	氏名	備考
H25.4.1	兼務	教育研究評議会評議員	川北 一人	任期：2年
H25.4.1	〃	副研究科長	川北 一人	任期：2年
H25.4.1	〃	センター長	戸丸 信弘	任期：2年
H25.4.1	所属換	教授	小鹿 一	
	(兼務)	〃	小鹿 一	部局内措置)
H25.4.1	採用	〃	森田 美代	
H25.4.1	〃	助教	高原 照直	
H25.4.1	配置換	教授	吉村 崇	
H25.4.1	兼務	〃	吉村 崇	
H25.4.1	〃	センター長	山内 章	任期：2年
H25.4.1	昇格	准教授	犬飼 義明	
H25.4.1	雇用更新		安益公一郎	任期：H25.4.1-H27.3.31 受入：松岡 信 教授
H25.4.1	採用	特任助教	宮田 真路	任期：H25.4.1-H28.3.31 受入：北島 健 教授
H25.4.1	育児短時間勤務 終了	—	井上 直子	H24.5.28-H24.11.11育児休業 H24.11.12-H25.3.31育児短時間勤務
H25.4.1	兼務	教授	黒田 俊一	H26.3.31まで
H25.4.1	委嘱	研究推進室室員	中園 幹生	
H25.4.1	雇用	外国人研究員 (客員教授)	HAQUE Muhammad Shahidul (外)	平成25年12月20日まで バングラデシュから、受入：芦荻基行 教授
H25.5.1	兼務	センター長	川北 一人	H27.3.31まで
H25.6.4	雇用	外国人研究員	GIKONYO Esther Wakiuru (外)	平成25年12月2日まで ケニアから、受入：榎原大吾准 教授
H25.7.1	兼務	特任准教授	大川 妙子	任期：H28.3.31
H25.7.1	〃	准教授	小田 裕昭	H26.3.31まで
H25.7.31	退職	—	齋藤 昇	岡山大学教授へ
H26.3.31	〃	—	畑 信吾	龍谷大学教授へ
H25.11.1	配置換	准教授	大森 保成	
H25.11.16	昇格	教授	谷口 光隆	

農学部同窓会ホームページ案内

祝賀会、講演会、懇親会の模様、農学部研究室の変遷などに関する情報は農学部同窓会ホームページ (http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/)に掲載中です。住所変更の案内もございます。是非ご覧ください。

平成24年度 事業報告

- 1) 総会、講演会、懇親会の開催
平成24年6月9日、名古屋大学農学部において総会を行った。総会終了後、青山博昭氏(財)残留農薬研究所 毒性部長)による講演「内分泌かく乱物質問題の顛末」を開催した。講演会終了後、名古屋大学内“花の木”にて懇親会を開催し、親睦を深めた。
2) 卒業生・修了生を送る会の開催
平成25年3月25日に農学部談話室にて卒業生・修了生を送る会を開催した。
3) 会報「セコイア通信」の発行
平成25年3月に発行した。
4) 農学部同窓会50周年記念事業～卒業50周年記念祝賀会の開催～
平成25年6月8日、名古屋大学農学部大会議室において第9回卒業生および修士第7回卒業生の50周年記念祝賀会を農学部談話室と共同で開催した。
5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページの充実をはかった。
6) 同窓会名簿の管理
同窓会名簿の更新を行うとともに、名簿情報の提供を行った。
7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力した。

平成25年度 事業計画

- 1) 総会、講演会、懇親会の開催
平成25年6月8日、名古屋大学農学部において総会を行う。総会終了後、永井雄太郎氏(JA あいち経済連 営農支援センター)による講演「残留農薬分析 一その方法と農産物の安全安心対策における役割一」を開催する。講演会終了後、名古屋大学内レストラン“花の木”にて懇親会を開催する。
2) 卒業祝賀会の開催
平成26年3月25日に農学部談話室にて卒業・修了祝賀会を開催予定。
3) 会報「セコイア通信」の発行
平成26年3月発行予定。
4) 卒業50周年記念祝賀会の開催
第10回卒業生および修士第8回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を開催予定。
5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページの充実をはかる。
6) 同窓会名簿の発行および管理
全学同窓会の名簿システムと連携し、名簿の充実と管理について改善に努める。
7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力する。

名古屋大学農学部同窓会 平成24年度決算

【収入の部】

Table with 6 columns: 費目, 決算(円), 細目, 金額(円), 備考. Rows include: 会費等 (1,767,000), 卒業50周年祝賀会費 (94,000), 総会懇親会費 (20,000), 前年度繰越金 (25,672,307), 合計 (27,553,307).



## 【支出の部】

費目	決算(円)	細目	金額(円)	備考
会報発行費	1,199,294	会報印刷・発送 振込手数料	1,197,614 1,680	9,000部 2件
総会	233,660	講師講演料 講師交通費 役員交通費 懇親会費	30,000 26,000 40,500 137,160	3名
卒業50周年祝賀会	131,756	飲食代 事務費	96,000 35,756	案内状印刷・発送
卒業・修了祝賀会	245,000	飲食代 記念品代	122,000 123,000	
役員報酬	132,000	役員報酬	132,000	11名
支部支援金	91,680	関東支部 関西支部 振込手数料	60,000 30,000 1,680	2件
名簿管理	0			
アルバイト代	250,000		250,000	事務補助
郵便振替手数料	21,470		21,470	
その他諸費用	86,349	交通費 課税納付 ガウン購入費	15,000 19,349 52,000	関西支部総会出席および講演 役員報酬、交通費、事務補助 名古屋大学アカデミックガウン2着
次年度繰越金	25,162,098			
合計	27,553,307			

## 名古屋大学農学部同窓会 平成25年度予算

## 【収入の部】

費目	決算(円)	細目	金額(円)	備考
会費等	1,910,000	永年会費 一般会費 寄付金 広告掲載費	1,000,000 400,000 480,000 30,000	50名 80名 80名 2件
卒業50周年祝賀会・ 談話会会費	70,000			35名
総会懇親会費	25,000			25名
前年度繰越金	25,162,098			
合計	27,167,098			

## 【支出の部】

費目	決算(円)	細目	金額(円)	備考
会報発行費	1,200,000			9,000部
総会	214,600	講演料 講師交通費 役員交通費 懇親会費	30,000 4,000 40,600 140,000	3名
卒業50周年祝賀会	140,000	飲食代 事務費	100,000 40,000	印刷・発送
卒業・修了祝賀会	300,000	飲食代 記念品代	130,000 170,000	
役員報酬	132,000		12,000	11名
支部支援金	90,000	関東支部 関西支部	60,000 30,000	平成25年度分 平成25年度分
名簿管理	20,000			
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	30,000			
その他諸費用	54,000	役員交通費(理事会) 談話会参加費 課税納付 事務費	10,000 4,000 20,000 20,000	年2回 役員報酬・交通費・アルバイト代 発送、コピー
余剰金	24,736,498			
合計	27,167,098			

### 平成25年度 役員名簿

名誉会長	前島 正義 (研究科長・学部長)	大島 健司 (分子生体制御学)
会長	藤井 潔 (学外)	名簿 芦苺 基行 (生物機能開発利用研究センター・高次生体分子機能)
副会長	服部 束穂 (植物細胞機能)	ホームページ 阿部 秀樹 (水圏動物学)
関東支部	石川 靖文 (学外)	会報 富岡 利恵 (森林環境資源学)
関西支部	加藤 壽郎 (学外)	会計監査 渡邊 健史 (土壌生物化学)
総務	伊藤 智和 (生体高分子学)	事務 宮田 久代 (生殖科学)
	矢野 勝也 (作物科学)	
会計	今井 貴規 (循環資源利用学)	



### 関東支部だより

関東支部長 石川 靖文 (S56食 D)

関東支部では、昨平成25年11月 9 日 (土)、東京神田神保町學士會館で第16回総会を開催した。参加者は23名 (内、ゲスト 2 名) であった。

冒頭、小職から支部現勢を報告、生命農学研究科長・農学部長前島正義先生から特別報告「名古屋大学の近況—学術と教育の花と果実—」を伺い、次いで東洋大学食環境科学部長林清先生に「食と健康 食を支える科学技術—頭で食べ、より健康に一」を講演いただいた。

支部現勢は、会員1,157名 (前年1,187名) で、やや減少であったが、メールで連絡が可能な会員は352名 (同274名) と大幅増であった。

前島先生のお話は、写真や図表を多用しながらの丁寧でユーモアにあふれたものであった。

大学全体としては、新研究センターの新設など研究基幹大学への体制を強化するとともに、専門課程の講義を英語で行うなどグローバル化への対応も進んでいる。英国 QS 社の世界大学ランキングで99位 (農学・林学分野では48位)、国内では 6 位 (同 5 位) に位置しており、文部科学省「研究大学強化促進事業」では支援対象機関のトップ 4 に入るなど、健闘めざましいとのことであった。経済学部4年の鈴木亜由子さんが、ユニバーシアード大会女子陸上で金メダルと銅メダルを取り、名古屋大学初のオリンピック・アスリートの可能性が高まっているとのことのお話もあった。

生命農学研究科・農学部については、研究科・学科が研究機能を軸に大きく組み変わり、女子学生の割合が過半、大学院前期博士 (修士) 課程への進学率 7 割、後期博士課程への海外からの留学生も多い—など、参加者一同今昔の感を深くした。『東洋経済』の調査で農学部が就職率 No.1になり、これに触発され

てか、京都の私学が、教員30名、学生1,660名の農学部新設に向け動いているとの話は、一同ビックリであった。感銘したのは、画期的なイネの作出で世界の貧困撲滅を目指す「WISH プロジェクト」である。1960年代のコムギによる「緑の革命」は、戦前わが国で育成された「小麦農林10号」が原動力であったが、来るべき「緑の革命」もわが国発というのは素晴らしいことである。

林先生のご講演は、大学の半年 2 単位分の講義内容を 1 時間に凝縮したような内容の濃いものであった。

栄養学の研究は日進月歩で、我々の学生時代の「常識」は随分変わってきているので、より良い食生活を確保しようとするのであれば、最新の研究成果に時々注意を払う必要があることが強調された。例えば、

— 太り過ぎも痩せ過ぎもダメ。ともにアルコールや煙草以上に健康に悪影響を及ぼしている

— BMI は 3 ヶ月間くらいの食生活の結果が現れる

「体の履歴書」なので健康指標として留意が必要

— カロリーの (2 ~ 3 割) 制限で長寿関連遺伝子群が発現するので、長生きしたければ食べ過ぎない

— 痩せすぎの女性 (BMI < 18.5) の増加が低出生体重児 (生活習慣病素因を持つ) の増加に繋がっている

— 「小さく産んで大きく育てる」は、誤り

— 児童・生徒の朝食欠食が、学力低下に繋がっている

— 等々、健康生活の質を高めるためには【食育】が極めて重要であることが豊富なデータをもとに強調された。

興味深かったのは、飲食の感想は、単に「美味しい！」

ではなく「◎◎で美味しい！」と形容することで大脳前頭葉が活性化され、惚け防止や健康長寿に繋がり、引いては医療費低減にも繋がることのお話であった。

講演の後は、林・前島両先生を中心に全員で記念写真撮影、15分の休憩の後、本部から頂いた「なごみ桜」での乾杯を皮切りに懇親会に入った。

興味深かったのは、飲食の感想は、単に「美味しい！」

ではなく「◎◎で美味しい！」と形容することで大脳前頭葉が活性化され、惚け防止や健康長寿に繋がり、引いては医療費低減にも繋がることのお話であった。

講演の後は、林・前島両先生を中心に全員で記念写真撮影、15分の休憩の後、本部から頂いた「なごみ桜」での乾杯を皮切りに懇親会に入った。

講演の後は、林・前島両先生を中心に全員で記念写真撮影、15分の休憩の後、本部から頂いた「なごみ桜」での乾杯を皮切りに懇親会に入った。

講演の後は、林・前島両先生を中心に全員で記念写真撮影、15分の休憩の後、本部から頂いた「なごみ桜」での乾杯を皮切りに懇親会に入った。

講演の後は、林・前島両先生を中心に全員で記念写真撮影、15分の休憩の後、本部から頂いた「なごみ桜」での乾杯を皮切りに懇親会に入った。

講演の後は、林・前島両先生を中心に全員で記念写真撮影、15分の休憩の後、本部から頂いた「なごみ桜」での乾杯を皮切りに懇親会に入った。

講演の後は、林・前島両先生を中心に全員で記念写真撮影、15分の休憩の後、本部から頂いた「なごみ桜」での乾杯を皮切りに懇親会に入った。



次回第17回総会は、本年11月22日（土）13:10～17:10 學士會館302号室で開催の予定である。

なお今年度は、支部の小西幹事が東芝フィルハーモニー管弦楽団のメンバーであったご縁で、同フィル定期演奏会（12月22日（日）MUZA 川崎）に支部会員をご招待いただいた。メールで希望者を募ったところ、15会員（同伴を含め33名）の参加を得た。この場を借り、改めて同幹事のご厚意にお礼申し上げたい。

## 関西支部だより

加藤 壽郎 (S45農 M)

関西支部は、年に一度の支部総会の開催と、全学同窓会関西支部総会への参加を主な活動といたしております。全学同窓会関西支部総会は平成25年5月18日、大阪の中央電気倶楽部にて開催され、濱口総長のご挨拶のあと、法学部出身の前中国大使、丹羽宇一郎さんのご講話をいただきました。120名程度と同窓生が参加され、農学部出身者も15名の方が来られ、盛会となりました。農学部の関西支部総会は、平成25年11月10日、大阪弥生会館にて開催いたしました。本年度は、19名の卒業生に参加いただき、総会、講演会、懇親会と続く一日を楽しく過ごしました。今年は、4名の方の初参加があり、関西での同窓会の輪も少しずつですが、広がってきているように感じます。

総会議事のあと、このたびは、近畿大学生物理工学部教授としてご活躍中の鈴木高広先生（昭63食 D）に、これまでの研究生活のお話と最近取り組んでおられる芋エネルギーの活用について研究進捗状況をご講話いただきました。とても面白いお話で1時間30分を超える長丁場でしたが、みなさん、最後まで熱心に聞き入っておられました。先生は、学生時代から微生物を活用した物質変換などを中心に研究をしてこられ、多くの成果をあげられました。その後、思うところがあり、化粧品のファンデーションのご研究へと、大きく方向転換をされましたが、この分野でも業界で注目される技術者として成功を収められました。さらに、地球を救う資源エネルギー問題の解決という壮大な目標

に向かって、2010年からは近畿大学に移られ、芋エネルギーの研究に着手されました。今のように化石燃料を使い続け、空気中の炭酸ガス濃度の急激な上昇を放置すれば、地球環境が大きく変化し、取り返しがつかないことになるのではないかと懸念があります。このたびの取り組みは、化石燃料を使わずに太陽光を活用し資源エネルギー問題を一気に解決しようという試みであります。いろいろな作物を検討した結果、サツマイモが適しているとの結論に達し、立体的な栽培方法を工夫されたりして、通常の5倍あるいは10倍の収穫を得る技術を開発中とのこと。そのような栽培技術が確立すれば、狭い国土でも日本が必要とするエネルギーをすべて芋エネルギーでまかなえるようになります。1kgのサツマイモが10円を切るようなコストになれば、資源エネルギーとして十分にペイできるようです。サツマイモを具体的にエネルギーとして活用する際には、発酵によりメタンを発生させ、発電に使うなり、メタノールとして使うことができます。大変、夢のあるお話で、実用化へ少しでも近づくことを願ってやみません。

ご講演のあとの懇親会では、例年通り、参加いただいた方全員に近況を報告いただきました。第一線で活躍されている方、定年を間近に迎え定年後の人生も視野に入れて業務に取り組んでおられる方、第一線から離れ悠々自適の毎日を送っている方、様々な方からのお話がありました。農学部で同じ釜の飯を食べた皆さんが、誰に遠慮することもなく、本音で語り合え、和気あいあいとした3時間を過ごしました。



来年度の関西支部総会は、平成26年11月8日（土）10:00～15:00に大阪弥生会館で開催することとしました。来年のご講演は、大阪労災病院、病理診断科部長としてご活躍中の三輪秀明先生（昭60農 D）にお願いすることとなりました。農学部を出身されたのですが医学部へ転向された先生に、わたくしたちが日ごろ疑問に思い、知りたいと思っている病気に関するお話をお願いしておりますが、先生のお話の内容について、ご要望があれば、是非、下記事務局までご連絡いただきたく思います。

(事務局連絡先) 寺前朋浩

〒669-1103 西宮市生瀬東町37-23

Eメール: rikatomo@ares.eonet.ne.jp

## 名大遠州会だより

佐々木 健 (H5畜産)

名大遠州会は、静岡県西部(大井川以西)に居住または勤務する名古屋大学、大学院若しくはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、総会を隔年で開催しています。平成25年は、第18回同窓会を6月15日(土)18時にオークラアクトシティホテル浜松にて70余名の会員が集い、名古屋から濱口総長、伊藤全学同窓会代表幹事、総務課廣川主幹の来賓をお迎えして開催しました。

会場では、卒業年代の近いグループで指定されたテーブルに付き、まずは奥村幹事の司会で昨年の会員物故者に対して黙とうをささげました。そして庄田会長の挨拶に続いて、濱口総長、伊藤代表幹事、廣川主幹からのご挨拶の後、91歳の久保名誉会長の乾杯発声で懇親会を開始しました。懇親会では、有徳みかさんのエレクトーン演奏をバックにして、世代と学部を越えた幅広い交流が盛んに行われ、和気あいあいとした雰囲気の中で懇親会は大いに盛り上がりました。そして最後に恒例の集合写真を撮影し、来年の同窓会への出席を皆で約束して、21時前に懇親会は終了となりました。



さて、本年は第10回総会と第19回同窓会をオークラアクトシティホテル浜松にて、6月14日(土)18:00に開催予定です。4月上旬頃に案内状を郵送しますので、奮っての御参加をよろしくお願いいたします。

連絡先: 遠州会農学部幹事 佐々木健

〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学 解剖学講座 神経機能学分野

Tel: 053-435-2293 Fax: 053-435-2290

Email: tsasaki@hama-med.ac.jp

## 農学部談話会便り

農学部談話会は平成14年に、“農学部OB同志の親睦、現役との交流をはかるために気軽に歓談する機会を”との趣旨で当時の名誉教授を中心に設立されました。会員は農学部在籍した教員・職員および現役の農学部長(研究科長)並びに教職員が主ですが、この輪をさらに同窓生にも広げ、農学部と親しむ会として発展できればと願っています。この談話会は毎年3月と11月の第2週金曜日の夕刻に農学部隣接する「花の木」にて例会を、また6月には同窓会と共催し、農学部・生命農学研究科の現状および話題提供者の講演を柱に開催しています。話題提供には“農学と社会”の視点に立つてできるだけ時宜を得たものにと心がけています。

本年の企画のうち、3月の第36回談話会を行いました。前島研究科長から農学部の近況についてお話いただき、「環境保全の面からも重要な我が国の林業について現状と展望」と題して、生命農学研究科地域資源管理学講座森林資源利用学研究分野准教授の山田容三氏に講演をしていただきました。

6月の同窓会との共催による第37回談話会については、以下のように開催を計画しています。

同窓生諸氏の積極的なご参加を募り、談話会を盛り上げていただくことを心待ちにしています。

### 記

#### 第37回農学部談話会

(農学部同窓会主催による第10回農学部卒業・修了50周年記念祝賀会と共催)

日時: 6月7日(土)、11時30分~午後2時

場所: 名古屋大学農学部大会議室

会費: 昼食代を含め2千円

記念講演: TPPと日本の農業について

生命農学研究科生命技術科学専攻

食糧生産管理学研究分野教授 生源寺真一氏

談話会についてのお問合せ等は世話人代表の杉山達夫(〒470-0131 日進市岩崎町岩根227、電話0561-73-5568、E-mail cedertree@nifty.com)までお寄せ下さい。本年6月以降は、世話人代表は柳沼利信(〒467-0044 名古屋市瑞穂区柏木町1-11-4、電話052-834-1963、E-mail yaginut@agr.nagoya-u.ac.jp)になります。

## 農学部の話題 —2013.01.01 ~ 2013.12.31—

〔「名大トピックス」より許可を得て農学部関係の一部を記載〕

- ・大場裕一生命農学研究科助教はホタルのさなぎの頭が光り続ける構造を解明 2013.2.6中日 (朝刊)
- ・研究現場発：赤果肉りんごの育種 松本省吾生命農学研究科教授 2013.2.19中部経済新聞
- ・生源寺眞一生命農学研究科教授が審査委員長を務める第72回中日農業賞について講評する 2013.2.21中日 (朝刊)
- ・シンポジウム「ノロウイルス対策とラクトフェリン—大切な人を感染症から守るために—」開催：4日 松田幹生命農学研究科教授が講演 2013.2.23朝日 (朝刊)
- ・野村信嘉生命農学研究科准教授は日立造船株式会社、東北電力株式会社と共同で結晶性ポリ乳酸の量産技術を開発 2013.2.25日刊工業
- ・新美輝幸生命農学研究科助教などは昆虫に隠された羽があることを突き止めた 2013.3.15中日 (朝刊)
- ・TPPへの参加について多和田眞経済学研究科教授と生源寺眞一生命農学研究科教授が語る 2013.3.16中日 (朝刊)
- ・吉村崇生命農学研究科教授と新村毅同研究員のグループはニワトリがコケッコと鳴く時間は体内時計で管理されていることを解明 2013.3.19中日 (朝刊) 他2社
- ・ペーパーナイフ：ホタルの光 大場裕一生命農学研究科助教はホタルのさなぎが光ることについて「夜でもこれだけ明るい社会になってしまうと、さなぎの光にはなかなか気付かないかもしれません」と語る 2013.4.4中日 (朝刊)
- ・新美輝幸生命農学研究科助教などは昆虫に隠された羽があることを突き止めた 2013.4.16日経 (朝刊)
- ・新美輝幸生命農学研究科助教はカブトムシの性差を抑えると雄雌中間型の角が作られることを突き止めた 2013.4.23朝日 (朝刊) 他4社
- ・第12回ヒメボタルサミット in 愛知開催：26日別所学さん生命農学研究科大学院生が講演 2013.5.8読売
- ・生源寺眞一生命農学研究科教授が農業政策について語る 2013.5.16中日 (朝刊)
- ・第12回ヒメボタルサミット in 愛知開催：26日 別所学さん生命農学研究科大学院生が講演 2013.5.18朝日 (朝刊)
- ・第67回日本栄養・食糧学会大会市民公開講座「健康長寿」開催：26日 下村吉治生命農学研究科教授が講演 2013.5.19中日 (朝刊)
- ・論点：不安定な農政 生源寺眞一生命農学研究科教授 2013.5.22読売
- ・生命農学研究科は愛知県森林・林業技術センターと学術連携協定を締結する 2013.6.21中日 (朝刊)
- ・中日新聞地球未来こども塾：田中隆文生命農学研究科准教授は「さまざまな見方ができる人になってください」と語る 2013.8.27中日 (朝刊)
- ・堀尾文彦生命農学研究科教授と東京大学はコーヒーが糖尿病の発症を抑える効果について研究成果を発表 2013.9.23毎日 (朝刊)
- ・生命農学研究科「あいち自然再生カレッジ」開催：11月9、16、30日、12月7、14日 2013.10.16読売
- ・生源寺眞一生命農学研究科教授は減反廃止について「農家の判断でコメを栽培できるようになる」と語る 2013.11.27中日 (朝刊)
- ・日本経済新聞社札幌支社開設50周年記念シンポジウム「北海道農と食の未来」開催：11月1日生源寺眞一生命農学研究科教授が基調講演 2013.12.6日経 (朝刊)

## 同窓会寄付者一覧

(2013.2.1 ~ 2014.1.31)

本年度、農学部同窓会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

青木 瑞希	旭 正	綾井 宣男	荒木(守田)光代	飯田 治利
五十嵐(山本)学	池村 桃佳	石河 正則	伊藤 憲禿	今井 正樹
梅村(永津)武夫	太田 伸輔	太田 晴喜	大村 百合	岡田(棚橋)直子
小川 三郎	奥村 純市	片岡 順	勝又 美穂	加藤 壽郎
加藤 信彦	門野(奥田)敬子	禿 泰雄	木村 恭文	栗本 重夫
齊藤 哲夫	笹本 武志	清水 祥	清水 直貴	真城(磯野)亜紀子
菅原 邦生	杉山 邦雄	高田 誠	舘本 勲武	谷口 武
塚崎 和彦	恒良 利男	手塚 信夫	所 聖太	中野 元
中野 正則	中村 研三	中村 元春	長坂 光司	成瀬 和也
長谷川利行	長谷川靖彦	畑中 洋	服部 誠	林 和男
林 雅俊	樋口 春三	平井 篤志	平林(宮本)悦子	広田 知敏
福井 敏夫	細井(井上)力	前田(小竹)美恵子	松本(金田)和子	馬淵 都子
水野 薫	柳沼 利信	山木 昭平	山田 剛久	山中 茂
横井 智規	横井 宏行	横地 修	横山 昭	吉田 昭
古田 隆則	吉田(松本)康			

## 事務局だより

事務局では農学部同窓会会員録データの改定を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局へお葉書か E-mail でご連絡ください。(〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学農学部・同窓会事務局、もしくは dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp まで。)

今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお答えしてまいりたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

## 全学同窓会について

名古屋大学の同窓生等の社会的な活動について広く情報共有し、大学と同窓生等のつながりをより強めるために、また専門分野を超えての情報交流が以前にも増して重要となっているなどの背景から、名古屋大学全学同窓会は設立され、部局同窓会と連携しながら部局横断的な活動を行っています。設立は平成14年で、現在、豊田章一郎氏（トヨタ自動車株式会社名誉会長）が会長を務めています。大学の社会へ向けての情報発信や、社会からの研究教育活動への参加や支援を受けることがますます強く求められる今日、社会とのパイプを持つ全学同窓会は、大学の発展にとってもその役割が期待されています。農学部同窓会からは、3名が全学同窓会幹事会に参加し、また評議員会には生命農学研究科長を含めて2名の評議員を出しています。平成25年度からは、長年にわたって農学部同窓会推薦評議員を勤めて頂いた福井敏夫氏（中日本冰糖俵取締役会長；S38年畜産学科卒）に代わって、柴田和憲氏（アサヒビール株式会社常務取締役 生産本部長；S54農芸化学科卒）に評議員になって頂きました。

平成25年度は以下のような活動を行いました。

### 1. 社会貢献人材バンクの名簿整備

大学が運営する「卒業生等名簿システム」の整備と運営に対する協力や、住所等移動データの整備とそのデータの部局同窓会への提供などが行われました。

### 2. 財政基盤整備

支援会員の募集や支援会費自動引落利用者の拡充、同窓会カード（クレジットカード）の普及と優待店舗の開拓、および活動協力金に関する様々な取り組みが行われました。同窓会カードに関しては、プラチナ American Express カードの発行が開始されました。

### 3. 拠点形成

関東支部、遠州会ならびに関西支部との連携・支援、および海外支部の新規設立と各海外支部との連携強化について取り組みが行われました。既設の支部（韓国、バングラディッシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、台湾、ラオス）に加えて、ミャンマー支部およびインドネシア支部が平成25年度新たに設立されました。

### 4. 運営基盤の整備

10月19日のホームカミングデーにあわせ評議員会が開催されました。ここで柴田氏への評議員交代が承認されました。その他、部局同窓会やクラブ活動同窓会との連携する活動が行われました。

### 5. 学生支援

名大祭への協力、同窓生が講師を務める寄付講義「キャリア形成論」の支援、TED × NU や名古屋大学交響楽団への支援等が行われました。また、豊田会長が入学式・卒業式へ出席し、祝辞を述べました。

### 6. 大学支援

ホームカミングデーの共催と支援を行いました。また、全学同窓会は毎年、「大学支援事業」として学生活動、就職支援事業、本部・部局事業（講演会、寄付講義など）、およびその他の同窓会理念に沿った事業の支援を行っています。上記、TED × NU や名古屋大学交響楽団への支援もその一環です。本年度農学部学生グループからの申請もありましたが、残念ながら採択されませんでした。

### 7. 広報活動

メールマガジンや Newsletter の発行、ホームページによる部局同窓会行事、OB による行事等の紹介などが行われました。

各種高圧ガス及び設備の設計・施工  
高圧ガス関連機器・各種実験機器

有限会社 アルファシステム

<http://www.alphasystem.biz/>

〒465-0005

名古屋市名東区香流1-415

TEL 052-776-4567

FAX 052-776-4568

*α system*

全国同窓会名簿作製・同窓会アドバイザー

**SALAT**  
Salat Corporation

株式会社 サラト <http://www.salat.co.jp/>

本社 兵庫県姫路市北条宮の町172  
Tel.079-284-1380 Fax.079-224-7746

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

アズワン	三洋電機
東京理化	タイテック
旭硝子	日本エイダー
久保田商事	アドバンテック
名古屋三立製作所	アドバンテック東洋

**MZH**  
株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事一丁目33番地

TEL 052-831-8800

FAX 052-834-4117

E-mail: mizuhorika@k2.dion.ne.jp

The Member of Confidence  
Agilent Technologies YOKOGAWA



東海3県 唯一の  
Agilent Technologies Authorized  
Distributor

横河商事 株式会社  
分析営業本部

【お問い合わせ】  
名古屋市中村区烏森町7-336  
TEL 052-471-7124  
FAX 052-461-0279  
yclana@ycl.yokogawa.co.jp

--ラボ運用のご相談をお受けいたします--  
GC x LC x Agilent x YOKOGAWA

コミュニケーションの進化に対応する

**KWIX** 株式会社 **クワイックス**  
URL <http://www.kwix.co.jp/>

印刷を核に情報産業を担う企業として、  
新時代のコミュニケーションの輪を  
拡げています。

■本社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2  
TEL (0566) 24-5511 / FAX (0566) 26-0200  
■名古屋本部 〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町19-20  
TEL (052) 871-9190 / FAX (052) 889-1410

農学部同窓会事務局では、広告の募集を  
しております。本会報の発行部数は、現在  
約7,900部で、本学農学部関係者に配布さ  
れています。会社の広告、同窓会の通知な  
どにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。